



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月9日

上場会社名 神姫バス株式会社

上場取引所 東

コード番号 9083 URL <https://www.shinkibus.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長尾 真

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 小林 健一

TEL 079-223-1243

四半期報告書提出予定日 2019年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	10,811	△0.1	242	139.6	292	79.8	137	95.1
2019年3月期第1四半期	10,825	2.6	101	△66.0	162	△54.7	70	△77.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 153百万円 (—%) 2019年3月期第1四半期 △237百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	22.81	—
2019年3月期第1四半期	11.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	57,704	42,965	74.4	7,130.10
2019年3月期	56,638	42,915	75.7	7,121.77

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 42,940百万円 2019年3月期 42,890百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	17.50	—	17.50	35.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	17.50	—	17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,900	0.0	2,450	5.3	2,640	2.8	1,740	△0.6	288.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	6,172,000 株	2019年3月期	6,172,000 株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2020年3月期1Q	149,586 株	2019年3月期	149,586 株
------------	-----------	----------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期1Q	6,022,414 株	2019年3月期1Q	6,022,656 株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかに回復しているものの、米国の通商政策による貿易摩擦や中国の成長鈍化、2019年10月に控える消費税増税等国内外の経済の不確定要素を受け、先行き不透明な状況となっております。

当社の事業分野におきましても、雇用環境の改善や訪日外国人旅行者の増加により順調に推移しておりますが、日韓関係の悪化による訪日韓国人観光客の減少や原油価格の動向等、予断を許しません。

このような情勢の中、当社は本年度を開始年度とする中期経営計画を策定し、自動車運送、不動産をコア事業、旅行貸切を成長事業と位置付け、これらの事業に重点を置いた事業展開を図りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比13百万円(△0.1%)減の10,811百万円、営業利益は前年同期比141百万円(139.6%)増の242百万円、経常利益は前年同期比130百万円(79.8%)増の292百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比66百万円(95.1%)増の137百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

① 自動車運送

当事業部門におきましては、乗務員の確保、安全性の向上、輸送効率の改善等の諸施策に注力してまいりました。乗合バス部門におきましては、一般路線バスでは好調な企業業績や雇用環境の改善を受け、通勤・通学需要の増加が続き、定期券売上が堅調に推移いたしました。また、2018年8月に公営バスからの一部路線受託もあり増収となりました。高速乗合バスは2019年4月「三宮～松江出雲線」を新設したほか、既存路線におきましても増便、一部路線の運賃改定を行ったこと等により増収となりました。郵便物輸送部門は新規受託路線の獲得等により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比96百万円(2.0%)増の4,874百万円、営業損益は事業拡大や乗務員確保のための人件費の増加等がありましたが、前年同期に比べ34百万円(12.0%)改善し、256百万円の営業損失となりました。

② 車両物販・整備

車両物販部門におきましては、車両の使用年数の長期化による自動車整備工場からの車検・整備関係部材の受注が増加したことや、設備関係部材の受注が増加したこと等により増収となりました。自動車整備部門は車検整備台数は増加したものの、車体装備品の取付減等により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比18百万円(1.0%)増の1,972百万円、営業利益は人件費の減少等により前年同期比44百万円(79.3%)増の100百万円となりました。

③ 業務受託

車両管理部門におきましては、新規契約や契約価格の増額改定がありましたが、2019年3月末に岡山営業所を閉鎖したことや既存取引先との契約縮小等により減収となりました。経営受託部門は2018年11月に姫路市宿泊型児童館「星の子館」がリニューアルオープンしたことや、ゴールドデンウィークの長期化によるレジャー施設「グリーンエコー笠形」の利用者増加等により増収となりました。介護部門はサービス付き高齢者向け住宅「青山の郷」の稼働率が減少したものの、前期開始した訪問介護事業のほか、各サービスの稼働増により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比27百万円(3.4%)増の844百万円、営業利益は前年同期比12百万円(29.7%)増の56百万円となりました。

④ 不動産

住宅部門は注文住宅の販売戸数は増加しましたものの、建売住宅販売戸数、分譲地販売区画数が減少したこと、またリフォーム件数の減少により減収となりました。建設部門は前年に工場新築工事があった反動により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比91百万円(△9.1%)減の920百万円、営業利益は前年同期比1百万円(△0.4%)減の340百万円となりました。

⑤ レジャーサービス

サービスエリア部門におきましては、西宮店において賃借先との契約変更により減収となりました。飲食部門は前期「いきなりステーキ姫路駅前店」の事業譲受及び「E PRONTO ビエラ岸辺健都店」並びに2019年5月「さち福やカフェ三宮店」の出店により、またツタヤFC部門は2019年5月「TSUTAYA熊見店」の事業譲受により増収となりました。なお、食品製造販売部門の株式会社富士屋かまぼこは2019年3月に株式譲渡しております。以上の結果、売上高は前年同期比78百万円(△5.4%)減の1,388百万円となりましたが、営業利益は前年同期比9百万円(491.7%)増の11百万円となりました。

⑥ 旅行貸切

旅行部門におきましては、手配旅行は2018年4月に開催した大相撲姫路場所の開催時期変更や団体旅行の受注件数減により減収となりました。募集型企画旅行は主力ブランド「バス旅」や訪日外国人向けツアーの集客が好調に推移したことにより増収となりました。貸切バス部門は東京ディズニーリゾート行バスを増便したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比77百万円(7.4%)増の1,123百万円、営業損益は前年同期に比べ30百万円(84.1%)改善し、5百万円の営業損失となりました。

⑦ その他

清掃・警備部門におきましては、ホテルや公共施設等の建物清掃・管理業務を新規受注したこと等により増収となりました。化粧品販売部門は前年実施したキャンペーンの反動及びエステサロンの一部閉店等により減収となりました。農業部門は運営方法の一部見直しにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比37百万円(△7.3%)減の476百万円となりましたが、営業損益は清掃・警備部門の収支改善等により前年同期に比べ8百万円(59.0%)改善し、5百万円の営業損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,066百万円増加し、57,704百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加2,048百万円、分譲土地建物の増加383百万円、有価証券及び投資有価証券の時価評価等による増加123百万円、商品及び製品の増加134百万円、受取手形及び売掛金の減少1,454百万円、有形固定資産の減少150百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,016百万円増加し、14,739百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の増加760百万円、前受金の増加427百万円、未払消費税の減少301百万円等であります。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加35百万円、その他有価証券評価差額金の増加30百万円等により、前連結会計年度末に比べ50百万円増加の42,965百万円となり、自己資本比率は74.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年5月15日に公表した予想を変更しておりません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,662	9,711
受取手形及び売掛金	4,821	3,367
有価証券	70	35
商品及び製品	496	631
仕掛品	246	178
原材料及び貯蔵品	123	114
分譲土地建物	352	736
その他	712	754
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	14,483	15,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,335	26,273
減価償却累計額	△16,642	△16,611
建物及び構築物 (純額)	9,692	9,661
機械装置及び工具器具備品	2,901	2,909
減価償却累計額	△2,214	△2,244
機械装置及び工具器具備品 (純額)	686	665
車両運搬具	16,788	17,076
減価償却累計額	△13,145	△13,473
車両運搬具 (純額)	3,642	3,603
土地	19,190	19,221
リース資産	1,953	1,941
減価償却累計額	△1,053	△1,127
リース資産 (純額)	899	814
建設仮勘定	38	34
有形固定資産合計	34,150	34,000
無形固定資産		
のれん	19	18
その他	393	382
無形固定資産合計	412	400
投資その他の資産		
投資有価証券	4,198	4,356
退職給付に係る資産	1,248	1,258
その他	2,264	2,199
貸倒引当金	△119	△36
投資その他の資産合計	7,591	7,778
固定資産合計	42,154	42,179
資産合計	56,638	57,704

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,185	1,182
1年内返済予定の長期借入金	261	243
リース債務	398	355
未払金	3,119	3,041
未払法人税等	240	183
賞与引当金	987	1,747
過年度雑収計上旅行券引当金	21	21
その他	2,475	3,024
流動負債合計	8,689	9,800
固定負債		
長期借入金	375	319
リース債務	599	546
役員退職慰労引当金	60	43
退職給付に係る負債	871	886
その他	3,126	3,142
固定負債合計	5,033	4,938
負債合計	13,723	14,739
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	36,361	36,396
自己株式	△448	△448
株主資本合計	41,288	41,324
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,449	1,479
為替換算調整勘定	—	△1
退職給付に係る調整累計額	151	137
その他の包括利益累計額合計	1,601	1,616
非支配株主持分	24	25
純資産合計	42,915	42,965
負債純資産合計	56,638	57,704

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	10,825	10,811
売上原価	8,037	8,033
売上総利益	2,787	2,777
販売費及び一般管理費	2,686	2,535
営業利益	101	242
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	43	33
持分法による投資利益	5	2
その他	35	33
営業外収益合計	86	72
営業外費用		
支払利息	0	0
固定資産除却損	5	10
関係会社貸倒引当金繰入額	14	5
その他	4	5
営業外費用合計	24	21
経常利益	162	292
特別利益		
車両等購入補助金	55	10
負ののれん発生益	—	10
特別利益合計	55	21
特別損失		
固定資産圧縮損	53	10
関係会社株式評価損	—	18
特別損失合計	53	28
税金等調整前四半期純利益	164	285
法人税等	94	147
四半期純利益	70	137
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	70	137

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	70	137
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△297	32
退職給付に係る調整額	△12	△14
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△1
その他の包括利益合計	△308	16
四半期包括利益	△237	153
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△238	153
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・整備	業務受託	不動産	レジャーサービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	4,727	1,445	811	928	1,467	1,028	10,409	415	10,825
セグメント間の内部売上高又は振替高	51	508	5	83	—	17	665	98	764
計	4,778	1,954	817	1,011	1,467	1,046	11,075	514	11,589
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△291	56	43	341	2	△35	116	△14	102

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	116
「その他」の区分の損失(△)	△14
セグメント間取引消去	△0
四半期連結損益計算書の営業利益	101

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	4,820	1,463	839	847	1,388	1,083	10,443	368	10,811
セグメント間の内部 売上高又は振替高	54	509	4	72	—	40	681	108	790
計	4,874	1,972	844	920	1,388	1,123	11,125	476	11,601
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△256	100	56	340	11	△5	247	△5	241

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	247
「その他」の区分の損失(△)	△5
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	242